

第1章

歩んできた
歴史とともに



人が集まるまちの原点

豊かな自然と水に恵まれた東松山の市域では、
古代から人々の営みが繰り返されてきました。

Origin of the city
where people
come together

市制施行前 Before gaining city status

中世

平安時代、開拓した土地を守るための組織である武蔵武士団がつくられました。のちに鎌倉幕府樹立の推進力ともなる勢力です。比企氏をはじめ、小代氏、野本氏、押垂氏などの武蔵武士の名が史実に登場するのもこの頃です。

鎌倉時代から戦国時代には、青鳥城などの城館が築かれるようになりました。

青鳥城跡
Odori Castle Ruins



近世

近世になると天領や旗本領として統治されるようになります。大谷村は森川氏、野本村は渡辺氏、唐子村は菅沼氏、高坂村は加賀爪氏に与えられるなど、旗本の知行地となりました。また、川越・熊谷道、日光道といった街道が通っていたことから、馬継場が置かれ、「宿」がつけられました。また、「市」が立ち、物資の流通が盛んに行われるようになりました。

松山陣屋跡碑
Monument marking the spot of the Matsuyama jinya



近現代

幕末に領地を支配するために置かれた松山陣屋は、1871(明治4)年の廃藩置県により廃止されました。市域は入間県、熊谷県を経て、埼玉県域に入ります。1888(明治21)年の町村制施行に伴い松山町・大岡村・野本村・唐子村・高坂村となります。1923(大正12)年に武州松山駅(現東松山駅)が開業し、交通網の整備が進みました。

東松山駅
Higashimatsuyama Station



市制施行後 After gaining city status

昭和

1954(昭和29)年1町4村が合併し、人口は約3万7千人となり、現在の東松山市が誕生しました。1975(昭和50)年には関越自動車道が東松山ICまで開通するなど、比企地域の中心都市として着実に発展し、1978(昭和53)年には人口が6万人を超えました。

1982(昭和57)年
花いっぱい運動開始
Start of the many flowers campaign



平成

関越自動車道に加え、圏央道(首都圏中央連絡自動車道)の整備により、物流施設を中心とした企業立地が進みました。企業誘致と雇用の創出をはじめ、住環境の整備、子育て支援の充実、交通の利便性の向上など様々なプロジェクトが進められました。人口は1993(平成5)年に9万人に達し、一時減少しましたが、2015(平成27)年から再び増加傾向に転じ、2017(平成29)年には再び9万人を超えました。

2016(平成28)年
化石と自然の体験館オープン
Opening of the Fossil and Nature Experience Center



1954(昭和29)年
合併祝賀行事
Merger celebration event



1975(昭和50)年
関越自動車道東松山IC開通
Opening of the Higashimatsuyama IC on the Kan-Etsu Expressway



1984(昭和59)年
高坂ニュータウン入居開始
Start of moving in to Takasaka New Town



2000(平成12)年
市民健康増進センターオープン
Opening of the Residents' Health Promotion Center



2005(平成17)年
子育て支援センター ソーレ オープン
Opening of the Sole Family Support Center



Structures like Odori Castle were built during the time from the Kamakura period (1185-1333) to the Warring States period (1467-1568). In modern times, it was ruled over as imperial lands and as the domain of a shogunal retainer. Roads such as the Kawagoe/Kumagaya road and the Nikko road passed through, and a post town was created with a relay station that used horses. A market then developed, and distribution of goods began to thrive. The Matsuyama jinya (administrative headquarters) that controlled the domain at the end of the shogunate was abolished with the rest of the han system in 1871. Bushu Matsuyama Station (now Higashimatsuyama Station) was opened here on the Tobu Tojo Line in 1923, and the transportation network advanced. In 1954, present day Higashimatsuyama City was established. The Higashimatsuyama IC opened on the Kan-Etsu Expressway in 1975, and Higashimatsuyama developed into a central city in the Hiki area. With the development of roads such as the Kan-Etsu Expressway and the Ken-O Expressway, companies began establishing businesses here, with a focus on distribution facilities.